

教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名(木村健一)

1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など(平成12-18年度に限る)

例:(欧文の場合は、原文 alphabet で記入してください)

#全著者あるいは作者名(自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

&著書、学術論文又は作品の名称

\$発行所(総頁数)、発表雑誌又は発表学会(号・巻・pp・年月)、展覧会(場所・期間)などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム(招待講演)・一般講演など(地方支部会・全国大会・国際会議)の別

註:学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

【作品】

木村健一、「伊藤メンタルクリニック・サイン計画」、北海道サインデザインコンテスト、優秀賞、2002.102

SEC、木村健一、秋田純一、戸田真志、「電子百葉箱システム」、第15回北の生活産業デザインコンペティション、工業デザイン部門銅賞、2002.1

柳英克、美馬義亮、木村健一、「ThinkingSketch常設展示」、SKIPCITY(県立彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム:川口市)2003.2-2004.3

柳英克、美馬義亮、木村健一、「ThinkingSketch」、デザイン学研究・作品集2004年10号、p40-45、2004.11

木村健一、秋田純一、戸田真志、南條宏、小野寺則行「電子百葉箱「ウェザーバケット」の開発」、デザイン学研究・作品集2005年11号、pp2-5、2006.3

【論文】

美馬義亮、木村健一、柳英克、「絵画作成ツール・ThinkingSketch」日本ソフトウェア科学会WISS2001ベストペーパー賞、レクチャー・ノート/ソフトウェア学27巻、p51-62、2001.12

Mima Yoshiaki, Kimura Kenichi, Yanagi Toshikatu, "The ThinkingSketch A Proposal for Creation Supporting", p158-175, Hierarchies of Communication, An inter-institutional and international symposium on aspects of communication on different scales and

levwls ,ZKM-Center for Art and Media,ISBN 3-928201-29-8,2003

Miki Yokoyama,Kenichi Kimura,Masashi Toda,Chiyoko Matsubara "Integration of Online and Off-Line Activities for Learning of Foreign Languages and Cultures" ,Language on the Edge ISBN1-930785-23-2,p117-130,2004

【ワークショップ】

木村健一、美馬義亮、「ThinkingSketchワークショップ」、主催：福島学院短期大学、9/13-14、2001

木村健一、美馬義亮、柳英克、「ThinkingSketchワークショップ」、主催：せんだいメディアテーク、12/21、2001

木村健一、美馬義亮、柳英克、「25 Artists Exhibition @CAMP」 ThinkingSketch Workshop(大川センター：京都府)、主催：大川センターCAMP、9/15、2003

木村健一、美馬義亮、柳英克、「ThinkingSketchワークショップ」、主催：金沢 21 世紀美術館、9/9、2006

木村健一、美馬義亮、柳英克、「ThinkingSketchワークショップ」、主催：金沢 21 世紀美術館、9/30、2006

【展覧会開催】

美馬義亮、木村健一、「思考のデッサンツール」、ITX2001（東京ドーム・プリズムホール）、主催：情報処理振興事業協会、2001.11

柳英克、木村健一、美馬義亮、「ThinkingSketch 展」、主催：せんだいメディアテーク、12/21-26、2001

美馬義亮、木村健一、柳英克、「Screen jack 02 ThinkingSketch Night」、主催：せんだいメディアテーク、12/22-26、2001

美馬義亮、木村健一、柳英克、「思考のデッサンツールThinkingSketch」、IPX2003Autumn（東京フォーラム）、主催：情報処理振興事業協会、9/28-29、2003

美馬義亮、木村健一、柳英克、「思考のデッサンツールThinkingSketch」第 16 回ビジネスEXPO

未来大学ブース（札幌市）、11/15-16、2003

美馬義亮、柳英克、木村健一、「ThinkingSketch Project展」、主催：金沢 21 世紀美術館、9/2-10/9、2006

【**展覧会企画・開催**】

木村健一、渡辺徹、「TeXとDTPの世界」、会場：未来大学ミュージアム、2003.9

木村健一、「秋田純一のメジュームマシン展」、会場：未来大学ミュージアム、2003.10

木村健一、「和田英一と日本コンピュータ外伝展」、会場：未来大学ミュージアム、2003.12

【**講演**】

木村健一、「情報化社会における学校教育のあり方」、平成 13 年度情報教育研修講座、主催：函館市南北海道教育センター、8/31、2001

木村健一、「情報デザインが開くオホーツクのアートマネージメント」（於：網走観光ホテル）、オホーツクデザインシンポジウム 2001、主催：オホーツクテクノプラザ、10/5.6、2001

木村健一、「未来の学校へようこそ」、第 27 次上磯町教育研究集会（上磯町文化センター）、主催：上磯町教育研究所、上磯町教育委員会、10/26、2001

木村健一、「地域産業の発展における企業と大学のかかわり方」、はこだてITパビリオン 2001（於：函館国際ホテル）、主催：NTT、11/20、2001

岡田新一、木村健一、白井朝子、外山茂樹、星野裕、「未来につなぐまちづくり」シンポジウム、第 15 回地域振興フォーラム（於：金森ホール）、主催：函館市、他

木村健一、「新設大学設立の内容と地域経済に及ぼす影響」、「街づくりセミナー」（於：とちかちプラザ）、主催：AGE研究所、12/12、2001

木村健一、「最近のデジタル・アートについて」、特別講演会（於：福島テルサ）、主催：福島大学地域創造支援センター、12/14、2001

木村健一、「共に考えよう函館のまちづくり」、講演（於：サンリフレ函館）、主催：函館からトラスト事務局、北海道宅地建物取引業協会函館支部、3/23、2002

木村健一、「非整備環境に対応する気象観測機WeatherBucketの開発」、講演（「ユビキタス情報

技術紹介セミナーin函館」於：函館ロイヤルホテル（カーネギーホール）、主催：独立行政法人産業技術総合研究所、共催：公立ほこだて未来大学、道立工業技術センター）、1/6、2005

木村健一、「メタ認知的学習プロセスによる熟達過程の支援」、講演（「情報処理学会北陸支部研究講演会」於：金沢大学工学部秀峯会館 1 階中会議室）、主催：情報処理学会北陸支部、2/23、2005

木村健一、「情報をデザイン（設計）する学び」、招待講演（CIEC第 58 回研究会、立命館大学びわこ草津キャンパスアクロスウィング）、主催：コンピュータ利用教育協議会、12/3、2005

木村健一、「ThinkingSketchプロジェクト」、情報デザイン学概論II、多摩美術大学情報デザイン学科、11/13、2006

【報告】

木村健一、美馬義亮、柳英克、「芸術のためのプログラミング」、夏のプログラミングシンポジウム報告書、p49-56、2001.8

木村健一、美馬義亮、柳英克、「あなたも楽しくリフレクション」、日本デザイン学会誌デザイン学研究第 48 回研究発表大会概要集、p344-3345、2001.10

美馬義亮、木村健一、柳英克、「リフレクションのための自動デッサンツール ThinkingSketch」、第 17 回NICOGRAPH論文集、p161-166、2001.11

刑部育子、木村健一 「デジタルポートフォリオを活用した大学の情報デザイン教育カリキュラムの開発」、平成 13 年度科学研究費補助金特定領域研究（A）公募研究 3「高等教育改革に資するマルチメディアの高度利用に関する研究」研究成果報告書（研究代表者：坂元昂）、p59-64、2002

伊藤精英・刑部育子・木村健一・戸田真志・長崎健・川嶋稔夫、「低視力者の屋内wayfindingを支援するサインシステム開発に関する基礎的研究」、ヒューマンインタフェースシンポジウム 2002、p491-494、2002.

秋田純一・戸田真志・木村健一・小野寺則行・原田茂芳、「産学連携による電子百葉箱開発プロジェクト ecopicNET」、情報処理北海道シンポジウム 2002、p23-25、2002.4.

木村健一、美馬義亮、柳英克、「絵画作成ツールThinkingSketchの展開」、デザイン学会第 4 回

研究発表大会概要集、p66-67、2002.10

横山美紀、木村健一、戸田真志、松原知代子、高山貴裕、 会話活動の可視化-会話のデザインツールのための基礎的研究、日本デザイン学会誌デザイン学研究第 49 回研究発表大会概要集、p364-365、2002.10

木村健一、秋田純一、戸田真志、「地域型電子百葉箱開発プロジェクトecopicNET」,SPER2002 教育と地域の情報化を考えるシンポジウム予稿集、p65-66、2002.12

木村健一、秋田純一、戸田真志、「地域展開型の電子百葉箱システム」、日本教育工学会・冬の合宿研究会予稿集、p48-51、2003.2

横山美紀、木村健一、「異文化体験のためのシミュレーションゲーム「バーンガ」情報表現への展開」、日本認知科学会第 20 回大会発表論文集、p376-377、2003.6

八尾彬子、美馬義亮、木村健一、「子どもの造形表現を支援する新しい「お絵かきソフト」の開発」、第 45 回プログラミングシンポジウム、p107-114、2004.1

船戸大輔、木村健一、「インターネットにおける「アトリエ的学びの場」の提案」、デザイン学会第 51 回研究発表大会概要集、p44-45、2004.6

木村健一、羽佐田恵、久留利愛弓、「DIY型ワークショップの提案」、デザイン学会第 51 回研究発表大会概要集、p52-53、2004.6

船戸大輔、木村健一、「インターネット上における「アトリエ的学びの場」の提案」、Design Symposium 2004 講演論文集、p135-138、2004.7

長内理子、戸田真志、新美礼彦、木村健一、秋田純一、小西修、「教育用定点気象観測データのための天気分類アルゴリズム」、電子情報通信学会教育工学研究会論文集、 、2005.3

石川淳子、木村健一、美馬のゆり、「リフレクション活動による調理熟達化支援」、デザイン学会第 52 回研究発表大会概要集、p8-9、2005.6

澁谷智志、木村健一、「作曲熟達過程を支援するシステムの提案」、デザイン学会第 52 回研究発表大会概要集、p14-15、2005.6

長谷隆広、木村健一、「自然観察における経験を生かした総合的な学びの支援」、ザイン学会第52回研究発表大会概要集、p40-41、2005.6

木村健一、「地域社会とIT 手作りキットから生まれた電子百葉箱システム」、情報処理Vol.46No.9-2005年9月号、p1062-1065、2005.9

戸田真志, 秋田純一, 中野義勝, 森山徹, 木村健一, "定点カメラを用いたサンゴ成長過程の長時間モニタリング",日本サンゴ礁学会第8回大会講演要旨集, pp.78, 2005.11.

岡本誠、木村健一、「シナリオを用いた情報デザイン」、デザイン学研究特集号「見る・聞くシステムと情報デザイン」第13巻3号通巻51号、pp72-73、2006.3

澁谷智志、木村健一、関幸江、P06「バスケットボールにけるフォーメーション学習支援ツールの開発」、デザイン学会第53回研究発表大会概要集、p366-367、2006.6

澁谷智志、木村健一、関幸江、Q-25「MetaBoardフォーメーション学習支援ツール」、日本認知科学会第23回大会発表論文集、p256-257、2006.8

船戸大輔、木村健一、「メタアトリエ・市民芸術創出のためのオンライン美術館」、ポスターセッション、2006 函館アカデミックフォーラム、【函館電子（株）賞】2006.11

船戸大輔、木村健一、「アートゲノムスクリプトによる絵画技能熟達支援ツール「MetaAtelier」の提案」、情報処理学会北海道シンポジウム2006、ポスターセッション、2006. 10

船戸大輔、木村健一、「絵画メタデータの共有による作画支援ツール「KIRIE」の提案」、インタラクティブセッション【査読付き】、インタラクティブセッション2007、2007.3

中島秀之、川嶋稔夫、柳英克、木村健一、2H5-8「アクセスによる情報編纂」、第21回人工知能学会全国大会、2007.6

山本佐恵、澁谷智志、木村健一、P10「バスケットボール熟達支援SNSの開発」、日本デザイン学会第54回研究発表大会概要集、pp312-313、2006.6

Mima Yoshiaki,Kimura Kenichi,"ThinkingSketch A reflection tool for drawing picture on computer",International Symposium on Design Science(ADC2001),2001

Masashi Toda, Jun-ichi Akita, and Ken-ichi Kimura, "Construction of Ubiquitous Weather Observation System", Proc. of The 7th World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics(SCI2003),2003

Hillel Weintraub,Miki Yokoyama , Kenichi Kimura,Masahi Toda ,"Designing Engaging and Meaningful Learning Environments with New Media:combining on-line bbs experiences with multi-sensual reflective conversation", p139,World Conference on Educational Multimedeaia,Hypermedia & Telecommunications(ED-MEDIA2003).2003

Jun-ichi Akita, Masashi Toda,and Ken-ichi Kimura,"Handy Meteorological Observation System for Hands-on Study,Proc. of The 8th World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics(SCI2004),2004

Junichi Akita, Kiyohide Ito, Ikuko Gyobu, Ken-ichi Kimura, Ayumi Mihara, Ryo Mizuno, Jun-ichi Nakakoji, and Keisuke Yanagihara "Dynamic Lighting Sign System for Way-Finding by People with Low Vision" , Proc. of 9th International Conference on Computers Helping People with Special Needs (ICCHP 2004).2004

2) 学会活動（役員・会員）、学会の組織運営、学会誌の編集委員など（平成12-16年度に限る）

例：

#学会などの名称

&編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間（年月）

註：専門分野によっては適宜変更（例えば、学会を展覧会などと記す）・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

特記事項なし

3) 研究費獲得状況（未来大学外からの財源）（科学研究費、財団助成金、委任経理金など）
（平成 12-18 年度に限る）

例：

#平成 12-(18)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$ 研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究（相手機関の協同研究者数など）

¥研究経費（例：平成 12 年度；800 千円、平成 13 年度；500 千円）

文部科学省教育コンテンツ開発事業「広域定点観測網実証プロジェクト」、酒井創、渡辺昌邦、遠藤仁、渡辺景子、篠田伸夫、木村健一ら、研究期間：2000.8～2001.3

情報処理振興事業協会未踏ソフトウェア創造事業、美馬義亮、木村健一、思考のデッサンツールの開発、研究期間：2000.10～2001.3

科学研究補助金・萌芽的研究、木村健一、美馬義亮、西野由希子、人工知能による絵画表現の現状と将来像、課題番号 13871007、研究期間：2001.6～2003.4

科学研究補助金・特定領域研究（A）、木村健一、岡本誠、柳英克、刑部育子、デジタルポートフォリオを活用した大学の情報デザイン教育カリキュラムの開発、課題番号 13020329、研究期間：2001

情報処理振興事業協会未踏ソフトウェア創造事業、美馬義亮、木村健一、柳英克、アートゲームプロジェクト、研究期間：2001.6～2002.3

通信・放送機構「先進技術型助成申請（産学連携枠）」、SEC、木村健一、秋田純一など、「ユビキタス・センシングによる環境情報モニタリングシステムの研究開発」、2003.2、研究期間：2003.4～2005.3

財団法人シップ・アンド・オーシャン財団「重点研究開発補助金」、函館造船工業協同組合、函館高専、北海道立工業技術センター、海上技術安全研究所、木村健一、戸田真志ら「IT技術を利用した総合的塗装飛沫飛散防止システムの開発」、2004.7、研究期間：2004.8～2006.3

科学研究補助金・基盤研究（B）、伊藤精英、佐々木正人、Stoffregen、塩瀬隆之、木村健一、三木信弘、日常生活における事象音の認知に関する基礎的研究：「生活聴力」概念の提唱に向けて、2006.6、研究期間 2006～2008

- 4) その他（特許、内地研究（学内共同研究は除外）および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は平成 12-18 年度に限定しない。）

【特許】

United States Patent

Patent No.: US 7,027,069 B2

Date of Patent: Apr.11,2006

PROGRAM FOR AUTOMATIC PICTURE FORMATION AND STORAGE MEDIUM
STORING THE PROGRAM

Inbentors:Yoshiaki Mima Kenichi Kimura

Assignee:SEC Corporation

2 教育業績

- 1) 教育負担の実態（複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ）本項目は時間割に含まれた教科（補講・補習など教室で行なったものは含む）を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。

例：

科目名（講義・演習・実習・補講の別）、単位数・必修/選択の別、担当教員数（単独の場合は不要）

&実施期間（平成 12 年度前期、あるいは平成 13 年 10-11 月）、実施コマ数（休講しても補講で補えば算定する）、補講をしなかった休講回数（例：実施 13 コマ、休講 2 コマ）

\$ 実働時間数（全て、実時間合計(推定)値でお願いします）、演習などは一コマ 1.5 時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ 2.2 時間などと算定してください（例：実働 22.5 時間）

%受講登録学生数（例：45 名）、平均的出席者数（例：38 名；初めは 40 名、終りは 25 名など）、単位認定（合格）者数

註：本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は 0 と判断します

学部システム情報科学部 平成 12 年～平成 18 年

芸術論 教養選択・講義 前期 1 コマ×15

情報環境構築演習 選択・演習 後期 1 コマ×15 教員 2 名による実施

情報表現基礎 I 必修・講義 後期 1 コマ×15

情報表現基礎演習 I 必修・実習 後期 1 コマ×15

システム情報科学実習 I 必修・実習 前期・後期 4 コマ×30

卒業研究 必修・実習、講義 前期・後期 2 コマ×30

大学院システム情報科学専攻 メディアデザイン領域 平成 15 年～平成 18 年

課題研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 必修・講義 前期1コマ×15 後期1コマ×15
メディアデザイン基礎 選択・講義 前期1コマ×15
システム情報科学研究 必修 前期・後期2コマ×15

2) 成績評価方法（その方法を具体的に記載・学生（社会）が納得するような具体的説明。）
また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

課題作品と提出されたジャーナルによる総合的な評価を行っている。課題作品の評価は、教員側の相対的な評価を「講評会」の席で行い、会の中で学生自身のコメントも考慮して相対的な評価を心がけている。なお、講評会終了後に各学生には、課題に使った時間、20項目の自己評価を5段階で行わせる。教員側の評価と学生側の評価が著しく異なる場合は、この評点を参考に是正する場合がある。

3) 講義方法など改善への努力（FD関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい）。

1) 教育方法の実践例

- ・ デジタルポートフォリオを活用した情報デザイン教育の実践

科研費特定領域研究A「メディア教育」利用分野で「デジタルポートフォリオを活用した大学の情報デザイン教育カリキュラムの開発」として採択された教育実践

公立はこだて未来大学専門必修科目「情報表現基礎1」「情報表現基礎1演習」は、情報をデザインする上で必要な、観察力と表現力とリフレクション力を学ぶものである。この授業の受講者のためにメーリングリストと電子掲示板、日程管理システムを併せ持つサーバーシステムを用い、教員と受講生と授業観察を行う有志教員数名を登録し、情報提供や質問、回答、リフレクションの指導を行う。さらに学内のwebサーバを用いて受講生全員の提出物や、教材資料をホームページとして公開している。

メリットとして、下記のことが明らかになった。

- ・ 学習者が課題制作中に起きた疑問やトラブルに対して、教師側からの助言を次の授業を待たずに行い、解決することができた。
- ・ 学習上の不安を、学習者同士で共有することで、積極的に学びに参加できるようになった。
- ・ 毎回のリフレクションをうながす事によって、学習履歴をドキュメントと画像を併用して記録することができた。これによって、自らの学びを客観的に評価することができるようになった。
- ・ 授業観察を行っている有志教員からのメールの投稿など、授業への他者評価が行われ、助言が学習者と教員に有効に働いた。電子メディアを用いて、情報をデザインする本授業の主旨が自然に学習者が理解することができた。

2 作成した教材

・ 芸術論講義用教材

- ・ 公立はこだて未来大学情報アーキテクチャ学科の助教授として「芸術論」（教養科目、1～4年配当、半期、選択2単位）において実践した。本授業は、電子メディアを用いて、芸術文化情報の広報や編集技術を学ぶものである。電子上の芸術情報の検索法や、文献や調査によって新たな知見を得ることを目的としてレポートや企画書の作成を行うなど演習的な要素を多く含んだ講義が行われている。
- ・ 配布資料はホームページとして提供され、調査先の美術館の参考作品にリンクするように作られている。また、提出されたレポートは学生同士の相互評価によって学びが促進されることを期待し、電子メールにより、その内容は公開されるようにした。このホームページ教材により、授業前後の予習復習やレポート作成の際に頻繁に利用されることとなった。
- ・ 授業前に本教材が公開されることから、事前に学習内容がわかり、各自がより深く学ぶ契機になった。
- ・ なお、レポートは電子メールによって提出されたため、引用関係の確認がたやすくなった。
- ・ 提出された課題は本学ミュージアムにて展覧会として開催されるため、会場における相対的な評価により、評価の難しいといわれる芸術作品の評価について客観的な視点で考えることができた。

3. 作成した教科書

・ 情報表現基礎 I 作品集について

- ・ 提出された学生作品を撮影し、作品写真と各自のコメントを掲載した作品集を教科書として用いている。この冊子を通じて、各自がおのの作品を閲覧し時間をかけて相互評価することが目的である。
- ・ 相互評価の結果はジャーナルという形でメーリングリストに投稿されることにより学習者達に共有され、教員側からのコメントを通じて客観的にコメントが加わる。こうした一連のリフレクション活動を通じて、相対的な評価を行っている。

4) その他（上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている（コース別）講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。）

特記事項なし

3 大学の管理運営

各種委員会（委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績（具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など）、その他。

公開講座委員会・委員長 平成12年4月～平成14年3月

地域住民を対象とした下記の公開講座の計画の計画を取りまとめ実施した。

平成12年度 「多文化コミュニケーション講座」

平成13年度 「コミュニケーションウィーク」「複雑系科学講座」

安全委員会・委員 平成12年4月～平成14年3月

安全の手引きの編集を行った。

大学院設置準備委員会・委員 平成13年4月～平成14年9月

教務委員会・委員 平成14年4月～平成18年3月

卒業研究にかかわる作業を主に行った。

新カリキュラムの情報デザインコースの改訂作業を主に行った。

AO・推薦委員会委員 平成16年4月～現在

入試委員会・委員 平成18年4月～現在

法人化検討委員会・委員 平成18年4月～現在

CML委員会・委員 平成19年4月～現在

委員会活動ではないが、開学以来本学ミュージアムの展覧会企画、運営を行っている。

年間5本程度の展覧会企画を行っており、一本あたり40時間程度の作業時間をあてている。

4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など

【地域への貢献】

函館市都市景観審議会条例検証部会委員 2000.4～2002.10

函館市都市景観審議会デザイン専門部会委員 2000.10～2001.8

函館市生活交通協議会委員 2001.6～現在

函館市生活交通協議会ワーキンググループ委員 2001.6～現在
財団法人北海道東北地域経済総合研究所客員研究員 2001.7～2002.3
函館市観光基本計画策定検討委員 2003.8～2004.7
道立四季の杜公園利用者協議会副委員長 2004.2～現在
函館市緑のパートナーシップ会議委員 2004.2～現在
函館市パブリックアート委員会委員 2004.8～現在
函館市中央図書館マスコットマーク選考委員会委員長 2005.2.1
はこだてまちづくり市民会議第3部会委員長 2005.6～2005.12
道南圏道立都市公園等指定管理者候補者選定委員会委員 2005.8～2005.12
函館市生活交通協議会副委員長 2007.7～現在

【出前授業・集中講義】

北海道森高等学校出前授業 2000.10
福島大学教育学部「コンピュータアート」集中講義 2000.8～2005.8
宮城工業高等専門学校情報デザイン学科「特別講義」集中講義 2004.9～2006.9
函館東高等学校出前授業 2004.10
帯広緑稜高等学校出前授業 2005.7
函館東高等学校出前授業 2005.9
帯広緑稜高等学校出前授業 2006.7
函館東高等学校出前授業 2006.11
千歳高等学校出前授業 2006.12
石狩南高等学校出前授業 2007.6

【掲載記事】

木村健一、「大学が変えていくデザイナー像 新設だからこそできる挑戦」、につけいデザイン、7月号、2000

木村健一、山本敏雄、「Macのある学校へ行こう！ 充実した環境ではこだての未来を担う」、MacFan8.1号、2000

木村健一、「子供たちに科学の本質を」全国各地の気象データと風景をネットで」、函館新聞、9.20、2000

木村健一、「各地の気象情報ネットで提供！小中学生らの教材用に」、読売新聞北海道版、10.14、2000

木村健一、美馬義亮、「コンピュータで「思考のデッサン」解析」、北海道新聞道南圏版、10.18、2000

美馬義亮、木村健一「新しい世紀へそれぞれの舞台で3 ソフト開発の天才 函館から発信する”最先端”」、北海道新聞第二社会面、12.18、2000

木村健一、「木村健一助教授の「思考のデッサンツール」、毎日新聞北海道版「羽ばたく2年目迎えた未来大学」欄、4.16、2001

木村健一、「インターネット時代の教材をボランティアで開発する」、朝日新聞全国版「悠・遊・人」欄、6.17、2001

<http://www.ne.jp/asahi/aoyagi/sky/hito15.htm>

木村健一、「メンタルクリニックをデザインする」、メディカルはこだて、5月号、2002

美馬義亮、木村健一、柳英克、「ソフト「アートゲノム」開発 今年度未踏ソフトに採択」、函館新聞、8.10、2001

木村健一、「気象観測小型で安く ネット活用電子百葉箱 はこだて未来大学企業と共同開発 中学校で実験」、北海道新聞第2社会面、1.5、2002

木村健一、「ゲーム、防災に応用 複数のマウスが動くソフト開発」、東京新聞夕刊第5面、2006.11.27 中日新聞、北陸中日新聞にも配信

木村健一、「バスケ戦術立案IT化 一画面にマウス10個同時操作」、日刊工業新聞1面、2006.12.18

木村健一、「マウス10個パソコンでバスケ はこだて未来大学が共同開発」、北海道新聞第2社会面、1007.2.22